

2023年3月10日
株式会社三菱UFJ銀行

三菱製鋼株式会社で「ポジティブ・インパクト・ファイナンス」を成約

株式会社三菱UFJ銀行（取締役頭取執行役員 ^{はんざわ じゅんいち}半沢 淳一、以下「当行」）は、お客さまの ESG（環境・社会・ガバナンス）の取り組みを支援・サポートする「ポジティブ・インパクト・ファイナンス（以下、「本商品」）」を提供しております。

本商品は、「持続可能な開発の3つの側面（経済、環境、社会）のいずれかにおいて潜在的なマイナスの影響が適切に特定され緩和され、なおかつ少なくともそれらの一つの面でプラスの貢献をもたらす」ことを企図するファイナンスであり、お客さまの事業活動が環境、社会、経済にもたらすインパクトを包括的に評価・モニタリングし、お客さまの ESG 経営を金融面から支援するものです。

本商品のインパクト評価は、当行が三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社（以下、「MURC」）と共同で策定した「ポジティブ・インパクト・ファイナンス フレームワーク」（以下、「フレームワーク」）に基づいております。フレームワークには評価にあたっての基準や体制等が規定されており、株式会社日本格付研究所（以下、「JCR」）より、国連環境計画金融イニシアティブによる「ポジティブ・インパクト金融原則」に適合している旨の第三者評価を取得しております。

この度、当行は、三菱製鋼株式会社に対し「ポジティブ・インパクト・ファイナンス」の契約を締結いたしました。三菱製鋼株式会社の事業活動に関連する重要なインパクト領域における評価結果は次の通りです。なお、本評価は、当行と MURC が共同で実施し、フレームワークに基づいた評価である旨を JCR より確認しております。

【本契約の概要】

契約締結日 2023年3月8日
融資金額 85億円
資金使途 事業資金
貸出人 三菱UFJ銀行

《本件の概要》

三菱製鋼株式会社は、いかなる経営環境の変化にも対応できる企業体質を確立することを重要課題と認識し、競争力ある事業の育成を通じて、持続的かつグローバルに発展することを経営の基本方針としております。この方針の下、「経営理念」「三菱製鋼グループ企業行動指針」「三菱製鋼グループ行動規範」に基づき、自らの社会的使命を果たすことでより信頼される企業を目指し、お客様・お取引先様・株主・従業員・地域社会など各ステークホルダーとの対話を通じて、持続可能な社会の実現を目指しております。

本契約の締結にあたり、SDGs（持続可能な開発目標）の目標達成に対しインパクトを与える活動として、三菱製鋼株式会社の事業及び重要課題から以下のテーマを選定しております。

【ポジティブ・インパクトの創出に関する評価】

インパクト領域	活動内容とインパクトの状況	項番
<p><環境> 気候</p>	<ul style="list-style-type: none"> 洋上風力発電関連機器の開発・販売による再生可能エネルギー発電設備増設への貢献 └ 風車建設工事に使用される機器や、自己昇降式作業台船（SEP 船）関連機器の開発・販売 └ 2022 年度受注実績見込 約 7 億円 	1
<p><環境> 廃棄物 <経済> 資源効率・安全性</p>	<ul style="list-style-type: none"> 廃棄物からリサイクル可能な資源を回収する選別機の開発・販売によるリサイクル量増大への寄与 └ 色彩工学選別機、非鉄金属選別機、磁力選別機の開発・販売 └ 2022 年度受注実績見込 約 13 億円 	2
<p><環境> 廃棄物 <経済> 資源効率・安全性</p>	<ul style="list-style-type: none"> リサイクル原材料（スクラップ鉄等）を用いた製品製造による廃棄物量削減への貢献 └ JATIM 社において電気炉でスクラップ鉄を溶解・利用 └ スクラップ使用量 132 千トﾝ（2021 年度） 	3
<p><社会> 移動手段 エネルギー</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自動車部品用特殊鋼材およびばねの開発・販売を通じた、手ごろな移動手段への材料と部品の供給 タービン用製品、ボイラ用製品の開発・販売を通じた、エネルギー効率向上への貢献 	4
<p><環境> 気候</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自動車用ばねおよびスタビライザの軽量化による、自動車走行時の CO₂ 排出量削減への貢献 └ 従来製品比で軽量化率 20%を達成する技術の開発 	5
<p><社会> 雇用 <経済> 包摂的で健全な経済</p>	<ul style="list-style-type: none"> 女性の活躍推進 └ 女性従業員比率（単体）：13.1%（2023 年 1 月現在） └ 女性管理職比率（単体）：4.6%（2023 年 1 月現在） ※「女性管理職の定義」： 役員社員の兼務を除く、参与（部長職）、参事（課長職） 	6

【ネガティブ・インパクトの緩和・管理に関する評価】

インパクト領域	緩和・管理の状況	項番
<p><環境> 気候</p>	<p>【インパクトの状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業活動に伴う GHG 排出量増加 └ 鋼材部門（国内） └ Scope1&2 排出量：18.1 万 t-CO₂（2013 年度） └ Scope1&2 排出量：21.4 万 t-CO₂（2021 年度） ※鋼材部門では、合弁深化（2017 年度より生産開始、2021 年度より生産本格化）に伴い事業拡大しており、2013 年度比での原単位改善を削減目標として設定 └ 他部門（国内） └ Scope1&2 排出量：4.5 万 t-CO₂（2013 年度） └ Scope1&2 排出量：3.5 万 t-CO₂（2021 年度） <p>【緩和・管理の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 鋼材部門では生産と機器の効率化、他部門は再エネ電力利用等を想定し、2050 年に向けた CO₂ 削減ロードマップを策定・公表し、排出量削減に取り組み 	7

<p><環境> 廃棄物 <経済> 資源効率・安全性</p>	<p>【インパクトの状況】 ・事業活動に伴う産業廃棄物発生 └産業廃棄物総量：17.6千トﾝ（2021年度）</p> <p>【緩和・管理の状況】 ・地球環境委員会において、年に一度、各事業所の種類別廃棄量、削減対策結果等を確認し、その半年後に現地訪問によって現場確認・書類確認を実施 ・分別による有価物の売却、廃材の有効利用、生産効率向上による原材料使用量の抑制にも取り組み</p>	<p>8</p>
<p><社会> 雇用 <経済> 包摂的で健全な経済</p>	<p>【インパクトの状況】 ・労働時間の増加 └年次有給休暇取得（単体）の促進 └2021年度末日数：平均12.7日 └2022年12月末時点日数：平均10.4日 └2021年度取得率：63%</p> <p>【緩和・管理の状況】 ・従業員の健康管理のための「健康経営宣言」および「健康経営方針」を設定・公表するとともに、フレックスタイム制度導入やDX推進による業務プロセスの効率化によって、従業員の労働時間の削減に取り組み</p>	<p>9</p>
<p><社会> 保健・衛生 雇用</p>	<p>【インパクトの状況】 ・障害の発生 └労働災害度数率（100万時間当たりの休業災害件数）：0.81件（2022年）</p> <p>【緩和・管理の状況】 ・グループ会社を含む国内拠点の安全担当者による会議「安全担当者会議」を設置し、障害発生の防止に取り組み</p>	<p>10</p>

上記のほかに<環境>水（利用可能性）等に対してもネガティブ・インパクトが特定されましたが、適切な緩和措置及び管理体制が取られていることを確認しております。

三菱製鋼株式会社は、サステナビリティの推進にあたって「サステナビリティに関する基本方針」を定め、持続的な成長を担保するための施策を協議・立案することを目的として「サステナビリティ委員会」を設置、下部組織に「地球環境委員会」「カーボンニュートラル委員会」「ESG分科会」を設置し、サステナビリティ課題への対応を行っております。また、リスク管理に関しては、国内・海外各拠点のガバナンスやコンプライアンスなどの管理面でのリスクを適切に管理するための組織として、CRO（最高リスク管理責任者）を責任者とした「リスク管理委員会」を設置し、リスク管理への対応を行っております。

特定されたポジティブ・インパクトの創出を維持し、ネガティブ・インパクトを管理・緩和するため、三菱製鋼株式会社による今後の取組内容、目標、当行がモニタリングを実施する項目（KPI等）および、特定したインパクトの項番との主な対応関係については以下の通りです。

【目標（KPI）】

内容	目標とモニタリング項目（KPI等）	関連項番
洋上風力発電関連機器の開発・販売の推進	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 洋上風力発電機器の大型化に対応した関連製品や機器装置類の受注推進 生産能力の向上を目的とした工場設備の増強等に注力 <p>【モニタリング項目（KPI等）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 関連製品の受注金額 取組状況の進捗状況 	1
選別機の開発・販売の推進	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 廃家電や廃モーターから銅などの金属を高精度に回収できるリサイクル用選別機器を開発・受注拡大 <p>【モニタリング項目（KPI等）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 関連製品の受注金額 取組状況の進捗状況 	2
電気炉におけるスクラップ利用量の拡大	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2023年から2025年まで JATIM社のスクラップ使用量累計：412千トン <p>【モニタリング項目（KPI等）】</p> <ul style="list-style-type: none"> JATIM社のスクラップ使用量 	3
自動車向け製品の開発・販売の推進	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自動車用ばね、スタビライザの軽量化による販売推進 <ul style="list-style-type: none"> 自動車用巻きばね：材料開発と工法改良による更なる軽量化製品の販売推進 中空スタビライザ：薄肉軽量化を進め、遅くとも2025年度からの量産開始に向け拡販 <p>【モニタリング項目（KPI等）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 関連製品の販売状況 	4 5
女性活躍の推進	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 女性社員に対する工場勤務など職域拡大、女性活躍推進を目的とした研修、女性社員対象の個別面談、女性取締役による女性管理職とのキャリア面談の実施などを通じて、女性が働きやすい環境づくりや制度面の整備等を推進 2025年度 女性従業員比率（単体）：15%以上 2025年度 女性管理職比率（単体）：10%以上 <p>【モニタリング項目（KPI等）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 女性従業員比率（単体） 女性管理職比率（単体） 	6

<p>事業活動に伴う GHG 排出量の削減</p>	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 鋼材部門（国内） <ul style="list-style-type: none"> ↳ 2030 年度 Scope1&2 排出原単位：10%削減（2013 年度比） ↳ 2050 年度 Scope1&2 排出量：カーボンニュートラル ・ 他部門（国内） <ul style="list-style-type: none"> ↳ 2030 年度 Scope1&2 排出量：50%削減（2013 年度比） ↳ 2050 年度 Scope1&2 排出量：カーボンニュートラル <p>【モニタリング項目（KPI 等）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 鋼材部門（国内）：Scope1&2 排出原単位 ・ 鋼材部門（国内）：Scope1&2 排出量 ・ 他部門（国内）：Scope1&2 排出量 	<p>7</p>
<p>労働時間の増加の 抑制</p>	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2022 年度以降 有給休暇取得率（単体）：75% <p>【モニタリング項目（KPI 等）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 有給休暇取得率（単体） 	<p>9</p>

当行は、特定されたインパクトの創出状況やネガティブ・インパクトの緩和・管理の状況、目標、モニタリング項目（KPI 等）の状況について、ファイナンス期間にわたり年 1 回モニタリングを実施してまいります。

株式会社三菱 UFJ フィナンシャル・グループは、「MUFG Way」の中で「世界が進むチカラになる。」を存在意義（パーパス）と定め、持続可能な環境・社会の実現に向けて、お客さまをはじめとする全てのステークホルダーの課題解決のための取り組みを進めています。引き続き、お客さまの ESG の取り組みを支援し持続的な成長を後押しすることで、環境・社会課題の解決に貢献してまいります。

以 上